

KSKP



とくていひえいりかつどうほうじん

特定非営利活動法人 リアライズ

にゅーす

リアルライフNEWS

ぼりゅーむ

vol.16

あけましておめでとうございます！

ことし ねが
今年もよろしくお願ひします☆



2011年の写真で作ってみました☆

1984年8月20日第三種郵便承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

リアルライフから新年のご挨拶

リアルライフより新年のご挨拶

昨年(さくねん)はほんとにいろいろなことがありました。

3月(がつ)の大震災(だいしんさい)は日本(にほん)に大きな傷跡(きずあと)を残(のこ)しました。自分(じぶん)たちも何か(なに)できないかと泉州(せんしゅう)地域(ちいき)で街頭(まちかど)募金(ぼきん)を行(おこな)い、また現地(げんち)でどんなこと(おこな)が起こ(おこ)っているのか、現地(げんち)にいち早く(はや)駆けつけ(か)た方(まね)を招(まね)いてセミナーも行(おこな)いました。8月(がつ)末(まつ)には内閣府(ないかくふ)に設置(せつち)された障害(しょうがい)者(しや)制度(せいど)改革(かいかく)推進(すいじん)会議(かいぎ)から障害(しょうがい)者(しや)自立(じりつ)支援(しえん)法(ほう)に変わる(あたら)新しい法律(ほうりつ)「障害(しょうがい)者(しや)総合(そうごう)福祉(ふくし)法(ほう)(仮称(かりしょう))」の骨格(こつかく)提言(ていげん)が取りま(と)められました。この法律(ほうりつ)が障害(しょうがい)者(しや)を持(も)つすべて(ひと)の人がよりよい生活(せいかつ)を送(おく)れるようにしっ(し)かりとした中身(なかみ)のあるもの(もの)になるようにしてい(い)かなければ(なければ)なりません。そのため(ため)にリアルライフでは11月(がつ)に勉強会(べんきょうかい)を行(おこな)いました。

代表(だいひょう) 三井(みつ)孝夫(たかお)の負傷(ふしょう)入院(にゅういん)という思(おも)わぬアクシデント(akusidento)もあり(あり)ましたが、いろん(いろん)な人(ひと)たち(たち)の力(ちから)を借(か)りながら(ながら)その時(とき)その時(とき)のできることを精(せい)い(い)っぱい考(かんが)え活動(かつどう)して(して)きた1年(ねん)だ(だ)った(た)と思(おも)います。

今年(ことし)も応援(おうえん)してくださ(くだ)るみなさん(さん)の期待(きたい)にも答(こた)えられ(られ)るよう(よう)に、そし(そし)てもち(もち)ろん(ろん)この地(ち)域(いき)の障害(しょうがい)当事(とうじ)者(しや)がいきいき(いきいき)と生活(せいかつ)してい(い)けるよう(よう)にみな(みな)一丸(いちがん)とな(な)って活動(かつどう)してい(い)きたい(たい)と思(おも)って(って)おり(お)り(ま)す。みな(みな)さま(さま)これ(これ)から(から)もリアルライフ(らいうらいう)をよろ(よろ)しくお願(ねが)い(いた)致(いた)します(す)！

三井 孝夫 (理事長)

※無事、ハローベスト取れました。ご安心を!

みなさん、こんにち(こん)ちは(は)！顔(かお)見(み)せ(せ)する(する)のが久(ひさ)しぶ(ぶ)りの三井(みつ)です(す)。何(なに)を(を)か(か)く(く)そう(そう)、実(じつ)は(は)…昨(けつ)年(ねん)の7月(がつ)に第3頸椎(だいさんけいすい)を骨折(こつせつ)し3ヶ月(かげつ)間(かん)、入院(にゅういん)し(して)お(お)り(ま)した(た)。骨(ほね)のみ(のみ)の損傷(そんしょう)で神経(しんけい)の損傷(そんしょう)がな(な)か(か)った(た)ので、呼吸(こきゅう)が確(かく)保(ほ)され(され)生(い)きて(いて)いた(いた)との(の)こ(こ)と(と)。

そし(そし)て、その入(にゅういん)院(ちゆう)中(ちゆう)の9月(がつ)14日(にち)に不整脈(ふせいみやく)の発作(はつさく)が起(お)こ(こ)り、ドラマ(どら)ま(ま)で(で)し(し)か(か)見(み)た(た)こ(こ)と(と)が(が)無(な)か(か)った(た)電(でん)気(き)シ(し)ョ(ョ)ック(ック)を“ドン！！”IGU(いご)に運(はこ)ば(ば)れ(れ)、家(か)族(ぞく)が呼(よ)ば(ば)れ(れ)…。し(し)か(か)し(し)な(な)が(が)ら、ま(ま)た(た)ま(ま)生(せい)還(かん)とい(い)う(う)出(で)来(き)事(ごと)が(が)あ(あ)り(ま)した(た)(汗(あせ))

もう(もう)怖(こわ)い(い)もの(もの)は(は)あ(あ)り(ま)せ(せ)ん(ん)(笑(わらい))現(げん)在(ざい)は(は)自(じ)宅(たく)療(りょう)養(よう)中(ちゆう)で(で)す(す)が(が)、来(らい)年(ねん)度(ど)ま(ま)で(で)

には復(ふ)帰(き)する(する)予(よ)定(てい)で(で)す(す)！や(や)り(り)残(ざん)し(して)い(い)る(る)泉(せん)州(しゅう)地(ち)域(いき)のI L運(うん)動(どう)を、復(ふ)帰(き)し(して)次(じ)第(だい)追(お)い(い)上(あ)げ(げ)たい(たい)と思(おも)い(い)ま(ま)す(す)。

ご迷(めい)惑(わく)とご心(しん)配(ぱい)を(を)お(お)か(か)け(け)し(して)ま(ま)す(す)が(が)、今(ことし)年(ねん)も(も)よろ(よろ)しくお願(ねが)い(いた)し(して)ま(ま)す(す)！



にし の ゆずる かんりしや
西野 讓 (管理者)

みなさん、あけましておめでとうございます！リアライズのカクレ
 モモジリ、西野讓です。毎年目標にダイエットを掲げておりますが、
 達成できず、ますます膨らんでおります。今年こそは痩せます！
 目標、5kg減！もし達成できなかったときは・・・事務所で発表し
 てますので、また遊びに来てください！
 今年もいろんなことがあると思いますが、みんなでがんばって参り
 たいと思いますので応援よろしくお願い致します！



にしとめ かずひろ そうだんいん
西留 一浩 (相談員)



昨年は右も左も分からない僕に、スタッフのみんながやさしく教えてく
 れて、なんとか形になりつつあります。南大阪の現状は財源不足を理由
 に自立生活に必要な制度の締め付けがあり、かなり厳しい状況です。リ
 アライズとしても自立生活センターとして地域の障害者が自分のしたい
 生活が送れるように活動していきたいと思っております。僕自身の課題も相談
 担当として、コーディネーター等と連携して自立生活センターとしてより
 機能させていくことだと思っております。今年もよろしくお願ひします！！

ながせ つばさ
長瀬 翼 (コーディネーター)

昨年は東日本大震災があり、原子力発電所の爆発がありました。
 原発から漏れ出る放射能の影響は震災や津波の被害に加えて被爆の
 問題を引き起こしました。震災後、障害当事者団体が呼びかけ人とな
 り、東北関東大震災障害者救援本部を東京と大阪、現地救援本部を
 岩手県、宮城県、福島県に設置し、各地の自立生活センターから被災地
 へ継続的に支援者が派遣されていますが、規模の小さいリアライズは
 支援者派遣には加わっていないのが現状です。



2012年はこうした現状に甘んじることなく、僕自身も含めてリアライズは、これまで以上に様々
 な行動を起こしていきたいと思っております。引き続き応援をよろしくお願ひ致します。



みやもと ゆきこ
宮元 有規子 (コーディネーター)

今年もよろしくお願ひします♪昨年は、新たに自立を目指す当事者も現れ、今年はどういった形になっていくのか、とても楽しみです☆昨年は、いつも慌ただしいリアライズが、さらに慌ただしくなった年でしたが、今年はずっくり出来るのでしょうか！？多分無理ですが…、良い意味で忙しい一年になればと思ひます。あと、今年はず誰も怪我や病氣にならないことを祈ります。。

やまもと ひろし ほさ
山本 啓司 (コーディネーター補佐)

昨年は活動に追われる日々がエンドレスに続いていた一年でした。特に12月は「師走」というだけに走りまくっていた氣がします。(笑)
まあ今年もこのスピード感で進んでいくのですが、情熱とユーモアを忘れず、活動できればと思ひます。今年も、よろしくお願ひします。



かわぐち かずひろ じょうきん けん ていきょうせきにんしゃこうほ
川口 和洋 (常勤ヘルパー兼サービス提供責任者候補)

あけましておめでとうございます。リアライズでヘルパーをし始めた時から、あっという間に時が過ぎ去り、今年の春で五年目になろうとしています…。常勤として始めてからまだ一年経たないくらいですが、今まで以上に介助についていろいろと考へられるようになったなあ…と思ひます。しかし！現状に満足するのではなく、介助以外の部分にも興味・関心を持ち、自身にとって飛躍の年にしたいと思ひます!!今年もよろしくお願ひします☆

ほしの たかひろ じょうきん
星野 貴大 (常勤ヘルパー)

明けましておめでとうございます。昨年は公私共に何かと慌しい1年でした。その中でも充実感も感じ始めてきて、少しずつですが大人への階段を登っていきけるのかなあと思ひています。(笑)
今年はず若さを理由に甘えず責任感を持ちつつ、自分らしさを忘れずこの一年頑張っていきたいです。



もりた みほ じょうきん
森田 美穂 (常勤ヘルパー)

あけましておめでとうございます。2011年を振り返れば、私にとって“気づきの年”だったと思います。

2012年は“飛躍の年”にすべく、強く逞しく生きていきます！2012年もよろしくお祈いします m()m



よしい ひかり じょうきん
吉井 ひかり (常勤ヘルパー)

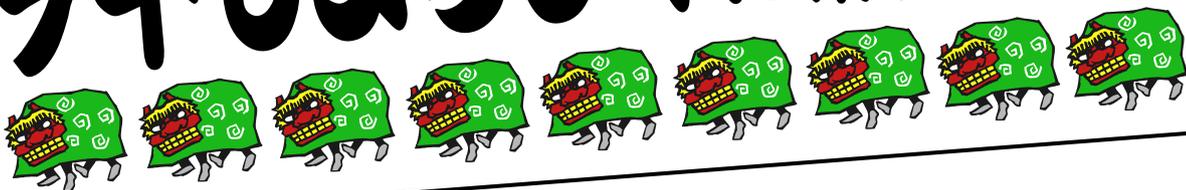
あけましておめでとうございます(´´)/ リアライズの常勤ヘルパーになって早②年…介助でまだまだやな～と思うことが多々ありますが、今年は辰年！ということで龍のように上を向いて歩いていけるよう、向上心を持って①年をすごしたいなあと思っています♪ズバリさらなる成長の年!!!今年もどうぞよろしくお祈いします☆

かわばた のぶまさ じょうきん
川端 延昌 (常勤ヘルパー)

あけましておめでとうございます。リアライズのヘルパーとして働き出して4年、常勤として働いて1年が過ぎようとしています。特に去年は常勤としてそれまでと比べて考えることが増えて、感じ方も変わった年だったなと思います。今年は去年培ったものを発揮し、まだまだ足りていないところを身に付けれる年にしたいと思っています。今年もよろしくお祈いします。



ことし
今年もよろしくお祈いします!!
 ねが



えぬぴーおー ほうじん

NPO法人 リアライズ 第2回人権セミナー

しょうがいしゃそうごうふくしほうせいいていむ 「障害者総合福祉法制定に向けて」

2009年12月に民主党政権発足にもなつて、障害当事者が参画した「障がい者制度改革推進会議」が立ち上がり、新たな総合福祉法の制定に向けた議論が始まりました。今年8月には「骨格提言」(障害者総合福祉法骨格に関する総合福祉部会の提言)が出されました。総合福祉法施行までには財源の確保や様々な法の整備など、多くの困難が予想されます。私たちが使う制度をこれ以上悪くさせないためにも、実際に制度を利用することになる私たちの声を届けなければなりません。そのためには、私たち自身がこの「総合福祉法」についての理解を深める必要があるため、今回のセミナーを開催いたしました。

第2回人権セミナー 実施概要

日 時： 2011年11月26日 (土) 13:30~15:30 場所： テクスピア大阪 4階研修室
 参加者： 39名
 講演内容： 障害者総合福祉法制定にむけて
 講師： 地村 貴士さん 自立支援センター「ぱあとなあ」代表

講師プロフィール

地村 貴士さん 自立支援センター「ぱあとなあ」代表

東大阪市にある自立支援センター「ぱあとなあ」で自立支援や行政交渉など活動を行っているだけでなく、障害者の自立支援や、制度の説明など全国各地で講師としても活躍されております。



はじめに

最初に地村さんより障害者総合福祉法の骨格提言に至るまでの話がありました。一点目は、国連の障害者権利条約の批准(この場合、署名した条約に対して日本が最終的な確認・同意をする手続き。)に向けて、条約に合わせて国内にある法律の整備をしなければいけないということ。

二点目に2010年1月に国に対し「障害者自立支援

法が違憲だ！」と訴訟をおこした原告と国の間で結ばれた基本合意文書の中で、2013年の8月までに自立支援法を廃止し総合的な福祉法を実施するということを国は約束したことがありました。

そうした流れの中で、障害者制度改革推進会議がスタートしました。総合福祉部会が立ち上がり合計18回の会議を積み重ね2011年8月に総合福祉法の骨格提言が出されました。

つぎ ちむら こっかくていげん だんかい
次に地村さんから、まだ骨格提言の段階なので、

これから変わるかも

し 知れないという前置

きが、今の段階

で考えられている

なかみ 中身についての

せつめい 説明がありました。



けんり 権利について

こっかくていげん おお けんり うた
骨格提言には、多くの権利が謳われていますが、

ここでそれを列挙すると

- ・ちいき じりつ せいかつ いとな きほんてき けんり
地域で自立した生活を営む基本的な権利
- ・しょうがいゆえ いのち きき けんり
障害故に命の危機にさらされない権利
- ・とくてい ようしき せいかつ きようせい ため しえん
特定の様式の生活を強制されずにその為に支援が
受けられる権利
- ・しゅわ みずか えら げんご
手話などで自ら選んだ言語でコミュニケーションを
取りながら生活する権利
- ・じぶん いし いどう けんり
自分の意思で移動する権利

これらのけんり しょうがいしゃひとり たいおう くに
これらの権利は障害者一人ひとりに対応され、国
や自治体はこのけんり もと しさく じっち
や自治体はこの権利に基づいた施策の実施をする
ぎむ じつげん
義務があります。これが実現されることで、どこで
せいかつ せんたく きかい ほしやう
れと生活するかについての選択する機会が保障され、
あらゆる分野の活動に参加する機会が保証されます。
そして、しょうがい うむ わ へだ きやうせい
そして、障害の有無によって別け隔てられない共生
しゃかい めざ かんが
社会を目指すことができると考えられています。

しょうがい はんい 障害の範囲について

しょうがいしゃ じりつ しえんほう、 しんたいしょうがいしゃ ちてきしょうがい
障害者自立支援法では、身体障害者、知的障害

しゃ せいしんしょうがいしゃ たいしやう まんせいしっかん なんびやう ぱつ
者、精神障害者が対象になり、慢性疾患や難病、発

たつしょうがいしゃ つか せいど そうごうふくしほう
達障害者には使いにくい制度でした。総合福祉法で

は、たにま しょうがい う ほうかつてき きてい
は、谷間の障害を生まない包括的な規定になり、

しょうがい はんい ひろ じりつ しえんほう たいしやう
障害の範囲が広がることで自立支援法では対象とな
らなかつた人もサービスを受けられることとなります。

ほんにんちゆうしん しえん けいかく 本人中心支援計画

そうごうふくしほう しきゆうけつてい しゆく
総合福祉法の支給決定の仕組みは、まずサービ
ス利用計画というものを作ります。

じぶん つく ひと じぶん じぶん つく
自分で作れる人は自分で作り、自分で作るものが
むづか ひと そうだんじぎょうしょ てつた
難しい人は相談事業所などに手伝ってもらいながら、
どんな風に生活していきたいのか、どのような生き方

をしたいのかというニーズを拾いながら、ニーズに沿
った計画を立てていきます。これを「本人中心支援計

画」といいます。この「本人中心支援計画」を役所に

申請することになります。役所はそれを受け、本人の

しょうがいしやてちやう しょうがい
障害者手帳や障害

者手帳を持っていな

かったら医師の意見

書などで、この人に

はしょうがいしゃ
は障害者のサービス

が必要だということを確認します。そして国が作成し

たガイドラインに沿って、自治体がガイドラインの

すいじゆんい か しきゆうけつてい
水準以下にならないように支給決定をします。

さいご 最後に

ちむら しょうがいしゃほんにん のぞ しゃかいさんかじやう
地村さんから、障害者本人が望む社会参加上の

ニーズを踏まえて必要なサービスを役所と協議して

いくには、ほんにん ささ しえんしやそうほう りきりやう
いくには、本人とそれを支える支援者双方の力量が

必要で、特に支援者の役割が重要になってくるという

話がありました。

また、この総合福祉法が制定までに多くの困難が

予想されるので、制定されるのをじっと見守るのでは

なく、わたし りそくてき ほうりつ
なく、私たちにとって、理想的な法律になるように、こ



の総合福祉法に関わる地域の集会などに積極的に参加してほしいとのことでした。

会場からの質問①

Q. 今ある就労支援系の事業所は最終的にどうなりますか？

現段階で考えられているのは、障害者就労センターとダイアクティビティセンターの2つが考えられています。障害者就労センターは、労働法の全面が適応される部分で最低賃金以上の所得、給料の保障

を国がサポートしていきことになる。作業所的な位置づけはダイアクティビティセンターと呼ば



れ、工賃が払われることとなりますが、労働法は適応せず、障害年金やその他の公的なお金を利用しながら地域生活を支えていくことが考えられています。

会場からの質問②

Q. 障害の内容や程度、及びそれにともなったニーズがありますが、新しい法律のガイドラインでは、どの程度対応できますか？

国でガイドラインを作って、市町村が参考にして支給量を決めていきます。国が作ろうとしているガイドラインでは最重度の障害者が地域で暮らすことを前提にした支給決定の仕組みを考えているようです。

自立支援法では国庫負担規準(各区分の国庫負担基準内において、負担割合は、国が2分の1、都道府

県が4分の1、市町村が4分の1になります。)を超えたものについては、自治体が負担しなければならず、実質的に国庫負担規準がサービス利用の上限になっている自治体がほとんどです。総合福祉法では、自治体が財源の負担がないように都道府県が負担割合を増やす仕組みや、国が国庫負担基準という形ではなく、義務的経費(責任を持って国が支出しなければいけないお金)として長時間の経費についても国が支えていく仕組みが考えられています。

当日の感想

人権セミナーに参加して

自立支援法では、実質的に国庫負担規準がサービスの利用時間の上限となってしまう、介助を使って地域で暮らしたくても暮らせない現状がありました。また、地域で普通に暮らすためのサービスですが、サービスに対してお金を払わなければならないなど、まだまだ障害者が地域で当たり前前に暮らすというには、ほど遠い現状でした。今回の総合福祉法の骨格提言によると、障害者の人権そのものを定義しなおしているところから、今度こそは、障害者が地域で当たり前前に暮らせる仕組みができるのではないかと期待は膨らみますが、財政の問題や、たくさんの法整備が予定されており、予断は許されない状態だと感じます。講師の地村さんが講演されていたように私たちにとって理想的な法律になるように自分たちの声をあげていかなければいけないと感じました。

文責: 西留一浩

が く せ い し え ん か

学生支援課だよい

学生支援って何なんや??

さくせいしゃ がくせいしえんかたんとう やまもと ひろし
 作成者：学生支援課担当 山本 啓司

リアルイズでは、^{ももやまがくいんだいがく} 桃山学院大学の1回生が^{かいせい} 社会福祉現場を体験することを目的としたフィールドワークを行っています。そして、^{こんねんど} 今年度から^{がくせいしえんかつどう} 学生支援活動として、^{あら} 新たに^{ももやまがくいんだいがく} 桃山学院大学の^{しゃかいふくし} 社会福祉士の^{じっしゅう} 実習を行うことになりました。

まずフィールドワーク報告!!



今年(ことし)のフィールドワーク学生紹介☆



氏名：山畑 凌

所属：桃山学院大学社会学部

社会福祉学科1回生

一口メモ：只今、大学生活満喫中

のようです☆

いよいよ大詰めになってきたフィールドワークの報告でございます。前回の報告に続きNOPLANのイベントにも参加したり、リアルイズ人権セミナーで総合福祉法を学習したりと、色んなところに首を突っ込んでもらってます(笑)

NOPLANの活動は山畑君にも合っているようで、楽しんでいるとの感想を聞いています。

今回のNOPLANのイベントの舞台は…天王寺キューズモール!

山畑君は、和歌山県出身ということもあり、天王寺にはあまり来

たことはないそうです。本人いわく、みんなでワイワイとキューズモールにある「渋谷109」という服屋に行った時、その店員は歌手の西○カナに似ていたようです☆僕はこのイベントには参加できなかったのですが、フィールドワーク担当としては、是非リサーチしにいかないっ!と思います(笑)

次のフィールドワークでは、場面がガラッと変わり、「障害者総合福祉法に向けて」をテーマにした人権セミナーに参加しました。山畑君からは内容は難しかったけれども、できるだけ少しずつでも覚えていきたいとの感想がありました。まだ1回生なので、後3年間じっくり学んでいってくれれば

と思います。って、僕はそんな偉そうなことは言えません…(笑)お互いがんばりましょう☆

つぎ じっしゅうほうこく さて次は実習報告です！！



じっしゅうがくせいしょうかい 実習学生紹介



しめい おおやま るい
氏名：大山 塁
しょうがい きん
障害：筋ジストロフィー
しゆみ きょじん
趣味：巨人ファンであり
やきゅうかんせん こうしえん い
野球観戦。甲子園に行く
ことがマイブーム☆



しめい きた きょうへい
氏名：喜多 恭平
しゆみ
趣味：アウトドア
バーテンダー、やきにくや
焼肉屋
じゆくこうし がくせい よんそく
塾講師と学生と四足の
わらじを履いている忙
しい人物☆

今年度の実習最終報告となりました！ファイナルシーズンの実習では、自立生活センター・ムーブメントが行う施設入所者を対象とした電動車いす講習、障害者総合福祉法をテーマとしたリアライズ人権セミナーに参加、その後、リアライズ実習の振り返りを行いました。電動車いす講習は、電動車いすに試乗した施設入所者がムーブメントのスタッフと一緒に好きな場所に出かけるプログラムです。参加した実習生は、単に電動車いすの便利さを伝えるだけではなく、地域で生きる楽しさを伝えることに意味があるんじゃないかと感じたようです。

人権セミナーでは、制度の難しい話もあり、二人とも頭を抱えて、勉強しなきゃ…といった表情でした。実習の振り返りでは、これまでの実習で感じたことや、将来、何をしたいかなどのお話をしました。大山君からは、ヘルパーを使いながら自立生活をしていきたいことや、喜多君からは、ヘルパーの仕事に興味があり、やってみたいです！との話もありました。二人にエールを送ります。そして実習おつかれさんです☆



じっしゅう がくせい かんそう 実習学生からの感想

電動車いす講習では自分が望んでいないにも関わらず、他に選択肢がなく施設入所をせざる得ない状況があることも知りました。人権セミナーでは、現行制度では、区分認定や当事者の意見が反映されていない状況があり、総合福祉法では、当事者の状況や想いがもっと反映されるものであってほしいと思います。(大山)

人権セミナーでは、障害者自身がなぜ困っている、どのようにすればいいのか、それは健全者だけでは考えても分からないことがあり、制度を作るときには、当事者の声を聞くことが大事だと感じました。また、それは制度だけではなく、どのような支援をするときも同じだと感じました。(喜多)

いずみおおつし じょうげんもんだい
・ 泉大津市ヘルパー 上限問題

このような実態にもかかわらず、2011年に障害当事者Aさんがヘルパー派遣時間数を増やしてほしいと泉大津市に要望した際に、障害福祉課担当者からの説明で、ある事実が判明しました。それは、2011年4月1日から訪問介護サービスと移動支援サービスの一月当たりのサービス支給量に一律に上限を設けるという運用をしていたことです。

これまで泉大津市では、ケアのニーズの高い人に対しては、その都度、個別に協議し必要性がある¹と判断された場合は、基準外の支給決定を行ってきました³。しかし、今回の財源不足を理由とした泉大津市の急な方針転換は市民に全く知らされず、さらに、現在の運用実態と基準を合わせる必要性から、同年10月1日付で要綱・支給決定基準の改定を行いました。2011年9月末日時点で、既に上限を超えて利用をしている人を除き、その必要性の有無に関わらず上限を超える支給決定を一切認めないことを明文化したのです⁴。

このヘルパー利用時間に上限を設けるといふ泉大津市の下した決定により、ケアのニーズの高い人、すなわち、より困難な状況にある重度障害者は、他の市民と同じように当たり前に地域で暮らしていく権利を奪われてしまいました。これは泉大津市が目指している「共に生きる地域社会の実現」に相反する行為です。

私たちは、このような市の姿勢を問い、決定の撤回を求め、どんな障害があっても地域で自立生活ができる社会的な仕組みの実現に向けて取り組んでいきます。

ぶんせき ながせつばさ
文責：長瀬翼

1 『泉大津市第3次障害者計画』(平成19年3月)

2 『「障害者を地域で支える体制づくりモデル事業」アンケート調査報告書』(泉大津市・忠岡町地域自立支援協議会 平成23年9月)

3 「利用者等の状況が、勘案事項の想定範囲を超えているなど、本基準により支給決定を行うことが適当でない」と判断できる場合は、障害者介護給付費等認定審査会の意見を聴いた上で個別に支給決定を行うこととする」『泉大津市介護給付費等支給決定基準』(平成18年10月1日 泉大津市健康福祉部障害福祉室)

4 『移動支援事業実施要綱・支給基準改正の概要』、『泉大津市介護給付費等支給決定基準』(平成23年10月1日 泉大津市健康福祉部障害福祉課)

けいけん まな わたし じりつせいかつうんどう 経験から学べ！！～私の自立生活運動～

おおさか じりつせいかつうんどう てんかい わたし けいけん 「大阪における自立生活運動の展開～私の経験から～」

ぜんかい ひ つづ おおさか のたにやすし
前回に引き続き、ピア大阪の野谷 靖 さんによ
わたし じりつせいかつうんどうだいにだん
る、私の自立生活運動第二弾です！

だいに ぶ ちいききよてん はじ 第二部：地域拠点づくりの始まり

しょうがいしゃうんどう れきし 障害者運動の歴史から

じりつせいかつうんどう れきし しーあいえる ひろ 自立生活運動の歴史とCILの広がり

ねんだいしじょう あお しば かい しょうがいしゃたち
1970年代初頭から「青い芝の会」の障害者達
ちゆうしん まち で うんどう はじ こくはつがた
が中心になって、街に出よう運動が始まり、告発型
さべつきゆうだんとうそう かいし なか ちいき なか
の差別糾弾闘争を開始。その中で地域の中でアパ
ートを借りての自立生活を実践していった。80
ねんだい こべつ じりつせいかつうんどう げんかい じしゆてき
年代には個別の自立生活運動の限界から、自主的な
さぎようしょ ちいききよてん すず つ
作業所（地域拠点）づくりが進められた。ケア付き
じゆうたく どう しゆうだんてき じりつ めざ
住宅やグループホーム等の集団的な自立を目指
うご で ねんだいこうはん じりつせいかつ
す動きが出てきた80年代後半。そして自立生活セ
ンターの全国的な広がりへとつながっていった。
しーあいえる お ねん しゆう
CILの起こりは、1975年、カリフォルニア州
パークレイにてエド・ロバーツらが始めたもの。
じぎょう はしら じりつせいかつ
事業の柱はピアカウンセリング、自立生活プログ
ラム、介助者派遣サービス、権利擁護である。
えーでいー しょうがい じん ほう
ADA（障害をもつアメリカ人）法は、199
ねん せいてい しょうがいしゃさべつきんしほう せいてい こ
0年に制定された障害者差別禁止法。制定に漕ぎ
つ ぜんべい しーあいえる しょうがいしゃだんたい うんどう
着けるには全米のCILや障害者団体の運動や
ぎかい たい かつどう かつぱつ おこ
議会に対するロビイ活動も活発に行なわれた。
しょうがいしゃさべつ ほうてき きせい さべつ う とき さいばん
障害者差別を法的に規制し、差別を受けた時、裁判

うった か つうことができるようになった。例え
に訴えたら、勝つことができるようになった。例え
ば、にゆうしゃしけん しょうがい りゆう お ばあい さ
入社試験で障害を理由に落とされた場合は差
べつ にんてい しょうがいしゃ はたら くるまいす
別と認定される。障害者も働けるような車椅子ト
イレやエレベーターや手話通訳等の諸条件を整
えないことが違法となる。機会平等と言うのは、
きかい しょうがいしゃ びようどう ほしろう
チャレンジする機会が障害者にも平等に保障さ
れるべきだという考え方。ADAに習って、日本
でもこのような差別禁止法を作ろう！という動き
さだとうきねんふくしけんきゆうかい ちゆうしん さまざま ば
が定藤記念福祉研究会などを中心に、様々な場
じよじよ ひろ
徐々に広がってきている。

ねんだい せいき しょうがいしゃうんどう
90年代から21世紀にかけての障害者運動を
けんいん じりつせいかつ とく
牽引してきたのは、自立生活センターの取り組みで
ある。じ る ぜんこくじりつせいかつ きぎょうぎかい かめい
JIL（全国自立生活センター協議会）に加盟
するCILも全国で100箇所を超えた。この
ちौरりゆう ねん しえんびせいど にな
潮流が2003年からの支援費制度を担い、20
06年からの障害者自立支援法について厚生
ろうどうしやう たい ものもう
労働省に対して物申してきたのである。

ねんだい じだい 80年代とはどういう時代だったか？

ねんだいぜんはん なが ～80年代前半の流れ～

ねんだい しょうがいしゃうんどう じやうきやう
80年代の障害者運動の状況について（この
しょう しゆくとかだいがく やましたさちこ けんきゆう きやうりよく
章は淑徳大学の山下幸子さんの研究に協力し
て2003年8月に執筆したものである。一部
けいしやうりやく
敬称略。）

ねん ようごがつこうぎむか そしとうそう こうよう
1979年の養護学校義務化阻止闘争の高揚の
あと かなり おお ひとびと しょうがいしゃうんどう き
後、かなり多くの人々が障害者運動から去って

った。それはある者は次の展望を見失った為であり、
 またある者は運動よりも自分の生活を大事にした
 いと言って去り、またかなり多くの人々がブームは
 去ったと言いつ残して去っていった。確かに義務化前
 の時期に、青い芝の会は健全者組織の解散を巡って
 関西青い芝が解体し、全健協も解散させられた。
 健全者組織を解体したことで、青い芝の会は結果的
 に無力化し、大阪青い芝の会だけは重度障害者が
 多く介護の問題の大切だからと全国の方針に反し
 て大阪グループ・ゴリラを残し、大衆運動として
 維持していくことができた。しかし、大阪内でも、
 健全者ペースや健全者の非常識な行動を巡って
 突然「緊急アピール」が出され(1978年)、運動
 が大きく揺れた。義務化後の運動の展望が見出せな
 い状況、鎌谷正代さんや多くの中心メンバーが
 脱退したことも手伝って、運動の混乱・動揺は続い
 た。大阪青い芝・大阪ゴリラ・りぼん社の三者は
 共同で、「薔薇の花計画」を提案し、運動の再建を
 呼び掛けた。その頃の三者共同の機関誌が「がし
 んたれ」であり、「飛翔」であった。やがて79年頃
 から「そよ風のように街に出よう」という雑誌が
 創刊され、りぼん社はその編集・発行に集中し、
 運動から実質的に抜けた。

生活要求一斉調査

1980年、大阪青い芝の会は「生活要求一斉
 調査」を開始した。これは生活・労働・教育・医療・
 施設などの諸課題に関する100項目近くに渡る
 アンケート調査であり、そのことを障害者と
 健全者の共同行動として行い、新たな在宅・
 在施設の障害者の立ち上がりを促し、その組織化
 を図りながら、障害者の生活要求に根ざした

行政闘争を準備しようというものであり、課題毎
 に深めていく小委員会も組織され(生活小委員会
 発行の「生活ハンドブック」等)、各地区(北部・
 東部・中部・南部)でまとまって調査を進めていっ
 た。例えば、「生活要求一斉調査南部地区実行
 委員会」など)。

一方、国の政策は、高度経済成長時のような施設
 収容政策に限界が生じ、安上がりの福祉へと転換
 すべく「地域福祉」へとチェンジしていった。これ
 は自助努力・相互扶助・民間活力の導入を唄い、
 行政責任を放棄していくものであった。この国の
 方針転換に対して、障害者運動側は、中央の全国
 闘争中心から争点となる「地域」を舞台に闘いを
 進めていくことが求められた。大阪青い芝・大阪ゴ
 リラの運動が「生調」活動を軸にした新たな展開と
 なっていくのも、この政策転換を一定踏まえたもの
 であったと言えよう。

障害者の自立と完全参加を目指す

大阪連絡会議の結成

さて、1981年の国際障害者年(初年度。8
 3年から92年までが「国連障害者の十年」とさ
 れた)は、政府—行政によるお祭り騒ぎで済んで
 しまった感はあるが、TV等でかなり宣伝されたた
 め、以前よりは障害者の存在が世間に知られるよ
 うになった。国際障害者年推進協議会が組織され、
 一部の障害者団体や親の会が国や行政に取り込
 まれていった。「完全参加と平等」というテーマは
 掛け声だけに終わり、その中の「障害の発生予防」
 だけが強調され、大阪府は「母子保健健康医療セ
 ンター」を建設し、羊水チェックや出生前診断を
 強化しようとした。優生思想に反対する立場から、

大阪青い芝の会は反対運動を行なったが、建設は強行され、82年に泉北にオープンした。大阪の運動側からの国際障害者年への取り組みは、応援センターを中心に「国障年をぶっ飛ばせコンサート」が開催された以外には取り立てて大きな動きはなく、あと、「国障年を機に障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議」が、全障連関西ブロック、しよう会、十五教組、かいほう同盟大阪府連、大阪市職、大阪青い芝の会等が参加して結成された。これが現在の障大連の起源である。

大阪青い芝の会、大阪グループ・ゴリラ、各大学障害者解放研究会(大阪市大・桃山学院大学・大阪教育大学ぐらいか。あと、サークルの形は明確ではないが、大阪大学・関西大学・大阪府立大学にも若干、介護等で関わっている学生がいた)は、各地区を単位に、介護、生調活動、大交流キャンパス等に取り組んでいた。北部地区は、A Z作業所の拡大バザーに取り組むことが中心だったが、地区としてのまとまりは弱く、安部さんの介護者グループ(ヤマト)、長尾さんの介護者グループ、長沢(入部)さんの介護者グループ(差別の狭間で出産にのぞむ障害者を囲む会)がややバラバラに存在していた。東部では、枚方に本部(金)さん、斎藤さんがおり、枚方障害者労働センターが始まっており、四条畷では森さんが独自で活動を展開していた(四条畷・大東障害者解放をかちとる会)。

85年頃、斎藤さんが高槻に移り、「高槻障害者解放センター・ひろがりはうす」を開所する。中部ではチーム制が盛んで、1~2人の障害者を取り巻く介護者で、「道野チーム」「李連協」「瀬古内開」といった分散型を呈していた。例会に参加する人数

は多かったが、自立生活をしていたのは、李義明さん・瀬古幹子さんだけであった。他の在宅障害者はなかなか自立の見通しが立たず、新入生歓迎の時期の度に新しい介助者をチーム間で取り合っている状況だった。南部では、比較的統一した動きが早くから出来ており、市大障解研も盛んでかなり安定した介護体制を持ち、生調活動も活発だった。例会参加者も多く、当時の南部事務所は障害者で一杯だった。自立していたのは、松井義孝さん・坂本博章さん・小畠義晴さんだった。大阪青い芝の会は、もりおさむかちょう まついふくかちょう さかもとじ むきよくちょう たいせい 森修会長、松井副会長、坂本事務局長の体制で、ちくだいひょう ほくぶ いるべかよこ とうぶ さいとうまさこ 地区代表が、北部~入部香代子・東部~斎藤雅子・ちゅうぶ みちのたかゆき なんぶ うえだまさやす 大阪中部~道野隆之・南部~植田雅康であった。大阪市の団体助成金の交渉(400万程度)等を行っていた。大阪グループ・ゴリラは、入部兼昭代表、ほそいきよかずじ むきよくちょう ほくぶ かわかみ しょう とうぶ こんどう 細井清和事務局長、北部~川上章、東部~近藤よしお ちゅうぶ なかむらのりひさ なんぶ まつうらのぶたか 義男、中部~中村範久、南部~松浦信孝であった。

1983年秋より、大阪の我々の運動は、新たな運動展開に向けて調査研究を進め、構想をまとめ、いくために、中央機関(意志決定委員会)の下に、「生活プロジェクトチーム」「労働小委員会」「学習運動委員会」を設置し、それぞれに専従を付けて、つき かい かくちく たんとうしゃ あつ かいごう ひら 月1回、各地区から担当者が集まって会合を開き、じっし せいかつ まつい 実践していった。生活プロジェクトは、チーフ松井、じ むきよくちょうのたに やすし じ むきよくいんいしだよしのり こんどう 事務局 長野谷 靖、事務局員石田義典・近藤よしお じ むきよく まいしゅうかいぎ ほんかいぎ そな 義男が事務局として毎週会議をし、本会議に備えた。行政制度研究・実例研究・構想づくりが主な活動で、東京八王子自立ホームに見学に行ったり、その他各地の生きる場や作業所の先進的な取り組みから学ぼうとした。生活プロジェクトとして、「生プロ通信」を発行し、協力会員も募っていった。

ろうどうしょうい うすい く み こ じ む きょくちよう どうよう
 労働小委は臼井久美子を事務局長に、同様に
 か く ち く たんとうしゃ で しゅうろう しょうがいしゃ
 各地区から担当者が出て、就労している障害者の
 なかま しゅうろう め ざ しょうがいしゃ なかま
 仲間づくりや、就労を目指す障害者の仲間づくり
 しゅうしょくこんだんかい そしきが こよう かん
 としての「就職懇談会」の組織化、雇用に関する
 せいど ちょうさとう おこ がくしゅううんどういいんかい おのうえ
 制度の調査等を行なった。学習運動委員会は尾上
 こうじ ほそいきよかず まいつき こうかいがくしゅうかい
 浩二・細井清和をリーダーに、毎月「公開学習会」
 かいさい じょうせい しょうがいしゃうんどう そうかつ こんご ほうこう
 を開催し、情勢と障害者運動の総括、今後の方向
 ていじ こうかいがくしゅうかい ほんこう
 を提示していった。「公開学習会パンフ」も発行し、
 あら うんどう きかんし ごうくらい
 新たな運動の機関誌として「うねり」も3号位ま
 だ
 で出した。

せい ぶんや こ きょうかい
 生プロは、分野を越えて（ボランティア協会・
 はちおうじせいいかつぶんかがっこう かくち
 おもちゃライブラリー・八王子生活文化学校・各地
 さぎょうしょ きまざま と く まな じつれいけんきゅう
 の作業所など）様々な取り組みに学び、実例研究を
 つ かさ こうそう だん
 積み重ねていったが、さあ構想づくりという段にな
 い づ も だくさん
 って行き詰まり、あれこれ盛り沢山なまとまりのな
 ていあん つく いっぽう げんじつ
 い提案しか作ることができなかった。一方で現実に
 ちゅうぶしょうがいしゃかいほう けんせつ いそ
 中部障害者解放センターの建設を急ぐことになり、
 ちく おおさかぜんたい さき
 「モデル地区」として大阪全体で支えていくことに
 き ちゅうおう のたに ちゅうぶ はけん のち さか
 決まり、中央から野谷を中部に派遣して（後に坂
 もと おのうえ はけん い ねん あき
 本・尾上が派遣される）テコ入れした。84年の秋
 のたに なんぶ ちゅうぶ いせき
 から野谷は南部ゴリラから中部ゴリラに移籍し、
 ひがしすみよしくや た げしゆく けんせつじゅんぴ さんか
 東住吉区矢田に下宿して建設準備に参加した。
 とく ちゅうぶしょうがいしゃかいほう きねん
 特に「中部障害者解放センター・オープン記念イ
 せいだい じっこう
 ベント」は盛大にやろうということでイベント実行
 いんかい けっせい ぜんたいかい ぶんかかい こ ひろば
 委員会を結成し、全体会・分科会・子どもの広場を
 じゅんぴ こうほう ちから い あさひ まいにち
 準備した。広報にも力を入れ、朝日・毎日・プレ
 けいさい ねん
 イガイドジャーナルに掲載された。1984年12
 がつ か どうじつ なん めい さんか ちゅうぶ
 月9日、当日は、何と500名の参加があり、中部
 だいひょう ののむらたかひろ あいきつ かわぎ
 を代表して野々村隆弘さんの挨拶を皮切りにスタ
 ぜんたいかい とうしょ ふくしとう やしろえいたぎいん
 ート。全体会では当初、福祉党だった八代英太議員
 よ ぎいんかいかん い ふざい ひしよ
 を呼ぼうとして議員会館に行ったが、不在で秘書

たいおう い かん もら
 対応。なかなか良い感じのメッセージを貰っていた
 すうじつまえ とつぜんじみんとう くらが
 が、イベントの数日前に突然自民党に鞍替えしたた
 あわ ひ こ くすのきとしお いそべしんぎょう
 め、慌てて引っ込め、楠 敏雄さん・磯部信教さ
 とうきょうはちおうじじりつ しょうちょう こうえん う
 ん（東京八王子自立ホーム所長）らの講演を受け
 ぶんかかい しずおか ろうどう
 た。分科会では、静岡のひまわり労働センターから
 たなかかつひろ き もら い ば ぶんかかい
 田中克博さんに来て貰っての「生きる場」分科会や
 しゅうろう きょういく わ かっぱつ とうろん
 「就労」「教育」などに分かれた。活発な討論に
 なったようだ。

ねんだいぜんはん とくちよう ちいききよてん
 80年代前半を特徴づけるとすれば、「地域拠点
 けんせつ おも ぎむかごなにのこ
 の建設」ということだと思ふ。義務化後、何も残ら
 そうしつかん ちいき なか た なお
 なかった喪失感から、地域の中から立て直していっ
 せいちょう つう こうはん しょうがいしゃ せいかつようきゅう し
 て、生調を通じて広範な障害者の生活要求を知
 あら た あ え ちから けっしゅう
 り、新たな立ち上がりで得た力を結集して、
 かくちくしょうがいしゃかいほう けんせつ
 「各地区障害者解放センター建設」をスローガン
 とく ねん がつ ちゅうぶ
 に取り組んできた。それが84年12月の中部、8
 ねん たかつき なんぶ いっぺん かつち じつげん
 5年の高槻と南部という形で実現していった。た
 せいかつ ろうどう ちいききよてん おお
 だ、生活と労働の地域拠点という大まかなイメージ
 ぐたいぞう だれ も
 はあったが、具体像は誰も持っておらず、やりなが
 かんが な じっさい ちゅうぶ かいしよ
 ら考えるしか無かった。実際、中部では、開所イ
 ご なに めいかく
 ベント後も、センターで何をやるか明確にできず、
 か ほんや こなせつけんはんばい き
 貸し本屋と粉石鹸販売ということしか決まってい
 じょうちゅうたいせい し きやく
 なかった。常駐体制を敷くのもやっとな、客は
 こ きよてん じっさい かつどう ぐたいぞう
 ほとんど来なかった。拠点での実際の活動の具体像
 あき つぎ じ き ま
 が明らかになるのは、次の時期を待つことになる。

じごう つづ
 次号へ続く!

賛助会員の協力のお願

リアライズの設立準備会を発足してから4年が経過し、NPO法人として活動を始めて5年が経過しました！

活動を続けるにつけて、リアライズの地域での役割は確実に大きくなり、泉州地域の障害者の自立生活を推進する役割を期待されているところです。

今のリアライズがあるのは、様々な形で応援して下さった皆様のおかげだと思えます。本当にありがとうございます。

これからも、障害者自立生活運動を泉州地域の障害者や家族、関係者、地域住民へ、また、その軌跡を全国へ発信することが、リアライズの役割であると強く感じております。

設立してから今日まで、リアライズを訪れてくれた地域の障害者や、興味をもって活動を共にしてくれている仲間達、福祉関係者や地域の方々との出会いのきっかけとし大きな役割を果たしているのが、設立当初から発行を続けている「リアルライフNEWS」です。

しかし、繋がりが増えれば増えるほど、通信の送付には多大な経費が必要となるため、一般の郵便の10分の1の料金で送付できる、『障害者第3種郵便』を活用したいと考えておりますが、「発送先の8割が有料購読していること。」という規定があり、通信送付についての購読料を頂かなければならないこととなっています。

リアライズでは、運営のサポーターとして、賛助会費(1年更新/通信購読料含む)を一口5,000円で、また、寄付金のご協力も募らせていただいております。たいへん勝手なお願いではございますが、賛助会員を継続していただける方々、また、新規加入していただける方々につきましては、別添振込用紙をご利用いただくか、下記の口座までお振込み頂ければと思えます。みなさまのご協力を無駄にしないよう、精一杯活動させていただきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

とくていひえいりかつどうほうじん
 特定非営利活動法人リアライズ
 りじちよう みついたかお
 理事長 三井孝夫

■ お振込先 ■

【ゆうちょ銀行振替口座】

口座名義 : 特定非営利活動法人リアライズ
 口座番号 : 00990-4-106506

【銀行振り込み口座】

銀行名 : リソな銀行 泉大津支店
 口座名義 : 特定非営利活動法人リアライズ
 代表三井孝夫

口座番号 : 普通 0120225

あけまして
おめでとう
ございます。

パイオニアLetter

パイオニア代表 ^{だいひょう} ^{おかだ} ^{のりゆき} 岡田 憲幸

(ニックネーム: ^{おか} 岡ちゃん)

あけましておめでとうございます！^{はや}早いものでもうパイオニアも
立ち上げ以来約1年半がたち、^た ^あ ^{いら} ^{いやく} ^{ねんはん} ^{きょねん} ^{ぼきんかつどう} ^{ひび} ^{かいぎ}
去年も募金活動やら日々の会議やら
何やら駆け足で過ぎ去っていった感じ(?)^{なに} ^か ^{あし} ^{すぎ} ^か ^{かん}
がありますが・・まあ、
忙しいというのはい、^{いそが} ^{なに}
何もしないよりはいいことなんでしょうか
ね!?(笑)今年もまたいろいろな波瀾万丈もあるかとは思いますが
^{わらい} ^{ことし} ^{はらんばんじょう} ^{おも}
が・・まあ、忙しさに押しつぶされない程度に(笑)、^{いそが} ^お ^し ^つ ^ぶ ^さ ^れ ^な ^い ^て ^い ^ど ^{わらい} ^{せい} ^い ^っ ^ぱ ^い ^ず ^み ^お ^お ^つ
を盛り上げていきたいと思っています!!^も ^あ ^{おも} ^{みな} ^{ことし}
皆さんどうぞ今年もよろ
しくお願いいたします!! (^ ^)

^{ことし} ^{もくひょう}
今年の目標!!

「^い ^っ ^ぱ ^い ^っ ^ぱ ^{ちゃ} ^く ^じ ^つ ^あ ^ゆ ^ま ^い
これから一歩一歩、着実に歩んで参ります!!」

スカイダイビングも多分します(?)



川本 将勝 (ニックネーム: かつを)

新年明けましておめでとうございます。

昨年^{しんねん} ^あ ^{さくねん} ^{ほんとう} ^{いろいろ} ^{かつどう} ^{ふじばやし}
は本当に色々なことがありました。パイオニアの活動では藤林さんと
いう新たなメンバー^{あら} ^{はい} ^は ^い ^り、^も ^っ ^と ^た ^く ^さ ^ん ^の ^{しょうがいとうじしや} ^{ひと} ^か ^か
障 害 当 事 者 の 人 たち が、^か ^わ ^わ
って^い ^け ^る ^場 ^の ^{必要} ^性 ^を ^痛 ^感 ^し ^ま ^し ^た。

また、日中活動の場を創^ば ^{ひつ} ^{よう} ^{せい} ^{つう} ^{かん}
っていく^に ^{ちゅう} ^う ^{かつ} ^{どう} ^ば ^{つく} ^{ため} ^ぎ ^ろ ^ん ^{ちゃ} ^く ^じ ^つ ^す ^ず ^ぼ ^く ^い ^ず ^み ^お ^お ^つ ^し ^み ^ん
為の議論も着実に進み僕も泉大津市民
として良かったなと思^よ ^か ^っ ^た ^な ^お ^も
います。

今年^{ことし} ^{さく} ^{ねん} ^よ ^り ^も、^よ ^り ^パ ^ワ ^フ ^ル ^に ^活 ^動 ^し ^て ^い ^き ^た ^い ^と ^思 ^い ^ま ^す。

^{ことし} ^{もくひょう}
今年の目標!!

「スカイダイビングに挑戦!
一緒に飛んでくれる人募集中!!」→川本まで!



泉本 麻木子 (ニックネーム: まきちちゃん)

明けましておめでとうございます。沢山の応援ありがとうございます。色
んな方々に支えられながら、パイオニアは^い ^っ ^ぱ ^い ^っ ^ぱ
一歩ずつでありましたが、^{ぜん} ^{しん} ^し ^て
いると感じます。2012年は、パイオニアにとっても更なる挑戦をし、^{あら} ^た
新たな発見の連続だと思^は ^っ ^け ^ん ^れ ^ん ^ぞ ^く ^お ^も ^あ ^た ^た ^み ^ま ^も
温かく見守っていただければと思^お ^も
います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

^{ことし} ^{もくひょう}
今年の目標!!

「これまで出会った方々、これから出会う方々との関係性を
濃いものにしていきます！」



しん 新ムバ



ディランはどこ〜?



じ しょう かい 自己紹介

ふじばやし ゆきお
藤林 行夫 (ニックネーム: バヤシさん)

ぼく しょうがいめい しんこうせいきん しょう
僕の障害名は進行性筋ジストロフィー症 (デュシャ
ンヌV型) という筋肉が衰える病気で、原因や発症も、
ちりょうほう とっこうやく み つ なんびょう ひとつ
治療法や特効薬も見付かいていない難病の一つです。

ちゅうがく ねんせい としき びょうめい つ いちじ さい
中学1年生の時に病名を告げられ、一時は20才
ぜんご よめい つ こと
前後と余命を告げられた事もありました。

いま い こと かんしゃ しょうじん
今は生かされている事に感謝し、これからも精進し
て参りたいと思っております。

パイオニアメンバーとしては、まだまだ新参で未熟者
ですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。

しんねん あ
新年明けましておめでとうございます。

パイオニアに参加させてもらって初めて迎える新年に胸ふくらませております。

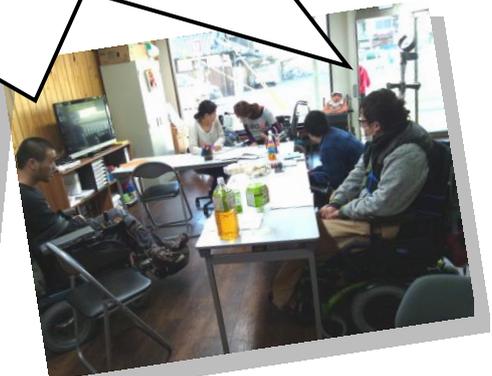
さくねん ぼく げきどう ねん
昨年は僕にとっても激動の1年でした。

ことし さい おおだい とつにゆう こと たいちようかんり てっぺい
今年50歳の大台に突入する事もあって、体調管理を徹底しつつ、マイペース
で頑張っていきたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願い致します。

ことし もくひょう じぶん から やぶ
今年の目標!! 「自分の殻を破る!!」



ことし ねが
今年もよろしくお願ひします!





目次

- リアライズから新年のご挨拶 (P. 2-5)
■ 第2回人権セミナー (P. 6-8)
■ 桃山学院学生支援 (P. 9-10)
■ 泉大津市ヘルパー上限問題 (P. 11-12)
■ 関西の障害者運動の歴史 (P. 13-16)
■ 賛助会員のご協力をお願い (P. 17)
■ パイオニア letter (P. 18-19)
■ 編集後記 (P. 20)

編集後記

新年あけましておめでとうございます！初めて編集を担当しましたはるおです。本名は川口和洋です。実は、はるおの「は」の字も入っていません！では、なぜ「はるお」というのでしょうか？それはまたの機会にお話したいと思います(笑)
今回、不慣れなパソコンを使つての編集ということもあり、リアライズ、パイオニアの方々にいろんなアドバイスを頂きながら作成しました。至らない点多々あるかと思いますが、リアルライフニュースを楽しんで頂ければと思います☆今年もよろしくお祈りします！ by. はるお

《発行人》

関西障害者定期刊行物協会

〒536-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル

《編集人》

特定非営利活動法人 リアライズ

〒595-0071 大阪府泉大津市助松町1-3-33エクセラート北助松1階 店舗4

TEL : 0725-22-7716 / FAX : 0725-22-7746

URL : http://www.cil-realize.com/

定価 : 100円

1984年8月20日第三種郵便承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行